



建築設備技術遺産

認定第 5 号 昭和初期の近代総合病院に日本で初めて採用された

信号機器および電気設備機器

管理者:三機工業株式会社

現代の病院設備の原形と形容されている東京築地の聖路加病院が 1933(昭和 8 年)に竣工した。病院設備機器として米国製のナースコール、ドクターページング、ドクター出退表示、薬局呼出装置、外来患者呼出装置、手術時計設備等が導入された。設計はアントニー・レイモンド、伊藤圭三電気設計事務所である。この病院建築に導入された電気設備は、(社)電気設備学会発刊の「電気設備技術史」において、歴史的な電気設備であると記されているものである。平成 2 年頃から始まった建替え工事の際に、設備機器が廃棄されることを、後世のために保存しようと英断した技術者に敬意を表したい。その他の貴重な設備機器として、低圧配電盤(昭和 5 年芝浦製作所)、埋込型分電盤、コンセントプレート等がある。これらの機器は三機工業株式会社湘南研修センターに展示されている。これらの中から下記の機器を、建築設備技術遺産認定基準に照らし合わせて、十分に価値を有するものであり、建築設備技術遺産として認定するに値するものと判断した。

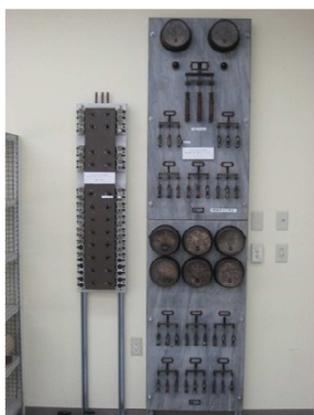
- ①ナースコールの表示器と患者用押しボタン
- ②インターホン設備の親機
- ③電気時計設備の子機(天井付)
- ④昭和 4 年 芝浦製作所製の配電盤と埋込分電盤



ナースコール表示器と患者用押しボタン



インターホン設備の親機



昭和 4 年芝浦製作所製の配電盤と分電盤



電気時計設備の子機(天井付)